

ご意見募集！

広報誌をより良くしていくためにみなさんからのご意見を募集しています。ご意見をお送りいただいた方の中から抽選で3名様に日南町の特産品をプレゼントいたします。

送り先：〒689-5292 日南町役場 企画課 広報担当

手紙、はがきに①住所②お名前③電話番号④ご意見・ご感想をご記入の上、企画課まで郵送またはお持ち込みください。みなさんからのご意見お待ちしております！（※メールでは受けつけておりませんのでご注意ください。）

今月の
表紙

「ふるさとに灯し続けていく ラッソクの明かり」

10月号は、毎年8月15日に印賀地区で行われている盆行事「ラッソク」についてご紹介します。



色づき始めた田園風景をラッソクの明かりが照らします

「ラッソク」はいつから始まったものであるか定かではありませんが、印賀では昔から先祖供養のために行われている伝統的な盆行事です。このラッソクには、先祖の霊を送る「送り火」としての意味があると考えられていますが、虫追いや害虫防除の役目もあるとの説もあります。

ラッソクの点火は、例年大宮地区の夏祭り「大宮十五夜」に合わせて行ってきましたが、コロナ禍の影響により、十五夜は3年連続で中止に。しかし、ラッソクだけは毎年続けようと、今年も実施されました。

このような盆行事を行っている地区は町内には他になく、印賀の広大な田園風景に連なって灯るラッソクの明かりは、夏の夜空に映えてとても美しく輝きます。大宮の人々によって長い間守られてきたこの火は、地域に住む人や帰省でふるさとへ帰った人たちの心を、今も昔も照らし続けています。



田んぼの畦に支柱を打ち込みます。



古布を入れた空き缶を支柱に取り付け、灯油を注ぎます。



辺りが暗くなり始めた午後7時頃、一つひとつに点火します。

かわむら たつや 印賀自治会長・河村 達也さんにお話を聞きました

大宮の先人たちが続けてこられたこのラッソクの火を見ると、先祖のことを思い出します。地域のみなさんも同じような思いでラッソクの明かりを眺めていらっしゃるのではないのでしょうか。

コロナ禍の影響でここ3年間十五夜が開催できませんでしたが、早く状況が落ち着いて、また十五夜で盆踊りや花火の打ち上げができるようになればと思います。地域の方も帰省客の方も一緒に集い、にぎやかに盆のひとときを過ごせるようにと願っています。

大宮の伝統を絶やさぬよう、これからもラッソクを続けていきたいと思っています。

